

平成28年度

第5回岡山市男女共同参画専門委員会要旨

- 1 日 時 平成28年10月3日(月)午後3時00分～
- 2 場 所 岡山市役所議会棟3階第1会議室
- 3 出席委員 高田委員長、小松副委員長、貝原委員、寺尾委員、土井委員、中塚委員、原田委員、松井委員、光岡委員、日笠委員
- 4 出席職員 小野市民協働局統括審議監
(女性が輝くまちづくり推進課) 光藤課長、石原課長補佐、高村主査、植木主任
- 5 傍聴者 なし
- 6 議 事
(1) 岡山市男女共同参画社会の形成の促進に関する条例第19条第3項運用基準について(報告)
(2) 「第4次さんかくプラン」策定について
(3) その他
- 7 配布資料
資料1 岡山市男女共同参画社会の形成の促進に関する条例第19条第2項の運用に係る審査票(第19条第3項運用基準適用)【介護認定審査会】
資料2 第4次さんかくプラン一覧(案)＜体系+数値目標+成果指標＞
資料3 第4次さんかくプラン体系について第4回委員会での意見に対する対応状況
資料4 第4次さんかくプラン数値目標・成果指標(案)
- 8 会議の状況
議題1 岡山市男女共同参画社会の形成の促進に関する条例第19条第3項運用基準について(報告)

事務局より報告

- 介護認定審査会 調査票H28-5
 - ・委員辞任による欠員補充 男性1名補充 女性比変更なし
- 介護認定審査会 調査票H28-6
 - ・委員定員数2名増員 うち1名女性の推薦あり 女性比35.9%より36.0%となり0.1%増

議題2「第4次さんかくプラン」策定について

主な意見

- 基本目標Iについて
 - 「さんかくカレッジ」講座内容の情報発信回数について
 - ・情報発信をしていくとなれば、個々にするのではなく、修了生の同期ごとやテーマごと等具体的な施策でしていかなければならない。終了した人の組織づくりや連携などがあってこそ、成果と継続がある。

- ・さんかくカレッジを受けた人の何%は講師になって欲しいという数値目標は出した方がいいのではないか。
 - ・その数値目標に達しないのであれば、修了生が報告会やパネルを作成する等新しい形で広く多く情報発信をするのいいのではないか。
 - ・市民協働事業を使っての情報発信もカウントしたらいいのではないか。
 - ・平成28年度以前の修了生も29年度に情報発信すればカウントする方が、皆さんが勉強して、どのような成果をどれぐらい出しているかがよくわかる。
- DVの「被害者を早期発見するための環境づくり」について
- ・若年女性がどこにも相談に行くところがないという現状がある。さんかく岡山にも若い人はあまり相談に行っていない。新しいプランにそこがないのは残念である。「被害者を早期に発見するための環境づくり」のところに、若年女性が相談に行くことができ、支援を受けられる仕組みづくりが必要ではないか。
- 「LGBT」という言葉の認知度について
- ・学校の先生や保護者だけでなく、一番苦しいのは子ども達なので、子ども達の理解が必要。当事者、周りの人達、子ども達も理解できる施策を進めていくべきである。
- 重点目標Ⅱについて
- 相談できる日本人がいる外国人の割合について
- ・相談できる日本人がいるかどうかというのは、施策として適切ではないのではないか。相談できる日本人がいる外国人の割合というのは、国際的な取組ではないと思う。
- 重点目標Ⅲについて
- 「待機児童の指数」について
- ・岡山市が、保育園やこども園の充実を進めていくことを考えているのであれば、園の時間的な受け入れ体制について詳しく出していくことが必要である。
 - ・待機児童の解消について、保育園を充実させることも重要だが、それだけでなく3世代世帯に対しての支援も方法の一つではないか。
- 「学童保育」について
- ・仕事と子育ての調和の中で学童保育は大事である。待機児童もかなり多いので、成果指標や数値目標があればいいのではないか。
 - ・学童保育は増えていて、民間企業もやっている。そのあたりも数値目標があればいいのではないか。
- 出産後の相談体制について
- ・新しい視点として、いつでも出産したところで、助産師などに出産後の相談ができる仕組みがあればいい。健診と健診の間にいつでも相談できる場所、そのような事もプランに入れていかなければならない。
 - ・もっと具体的に産んだ近くの産婦人科で助産師等に相談できたり、サポートを受けたりできればいい。
 - ・岡山市でサポートする公的なセンターがあるのなら、そういった取組がプランに入っていない。
- 「市の実施する再就職支援講座受講者のうち就職に向けて活動した人の割合」について
- ・活動とは、いろいろなやり方があるので、ハローワークに行っていることと限定せず、たくさん項目を作った方がいいのではないか。

○「PTA会長の女性の割合」について

- ・PTA会長に女性の割合を増やすことは必ずしも良いとは思わない。PTA役員は女性が多く、会長まで女性になると、男性の参画がなくなってしまう。
- ・PTAの役員は女性が多くても、意思決定の場には男性が多い。PTA連合会で男性が集まって物事を決める場合、意見や方向性の部分で、男女共同参画にならない。

議題3 「その他」

次回日程について事務局より説明。